

アジアの伝統芸能 第二回

中国伝統芸能の概説

“戯曲” と “曲芸”

世界の無形文化遺産となった狂言

中国唐代の古文書にも見られた話が、やがて狂言「附子」へと発展したように、アジアでは長い交流の中で、文化を共有するとともに、それぞれの国が独自の伝統文化を発達させてきた。

六百年以上にわたって磨きあげられてきた狂言は、いま独自の伝統的表現様式をもつ演劇として、世界中で人気を博している。



「なごみ狂言会チェコ」

チェコに誕生した「なごみ狂言会チェコ」は、狂言方大蔵流茂山家の指導を受けたヒーブル・オンジェイ氏が主宰する狂言劇団。狂言本来の規範や技法を重んじ、東欧を中心に七〇〇回以上の公演を行っている。

チェコ語によって狂言の魅力を世界に伝える活動が評価され、二〇一五年度、法政大学能楽研究所から第二六回催花賞が授与された。



なごみ狂言会チェコ(右がオンジェイ氏)

日本とチェコの狂言師の共演

二〇〇九年にNHKが放送した「男自転車ふたり旅」では、大蔵流狂言方の茂山宗彦（もとひこ）がチェコのブルノを訪れ、なごみ狂言会チェコとともに狂言を演じるようすが紹介されている。

はじめになごみ狂言会チェコがチェコ語で狂言「附子」を上演。続いて茂山宗彦となごみ狂言会がチェコ語と日本語で「口真似」を共演した。



狂言で山伏を演じる茂山宗彦



3日目 ブルン



ヨーロッパが見た狂言の価値

なごみ狂言会チェコのヒーブル・オンジェイ氏は、ヨーロッパでの狂言上演について、こう語っている。

「ヨーロッパでこの六年間におよそ二六〇のチェコ語狂言を上演してきたが、これらの経験から一つだけ確信したことがある。『狂言はヨーロッパで非常に受け入れられている』：：良質のワイン、クラシック音楽、そして狂言。優れたものはどの国でもその価値に変わりはないのだ。」

ヒーブル・オンジェイ

「『碧い眼』が見た狂言の魅力」より

「固有の伝統文化」とは？

アジアでは狂言「附子」のように、素材を共有しながらも、独自の伝統的表現様式を創造することで、固有の伝統文化が生み出されてきた。

今回はさまざまな伝統的表現様式をもつ中国の伝統芸能の世界を概観しながら、日本の伝統芸能との類似点や相違点について考えてみたい。



狂言「附子」(『狂言絵』より)

中国の伝統芸能

中国には「戯曲」と総称される三百種あまりの伝統演劇と、「曲藝」と総称される四百種ほどの語り物がある。

以下、その分類と代表的な芸能を紹介する。

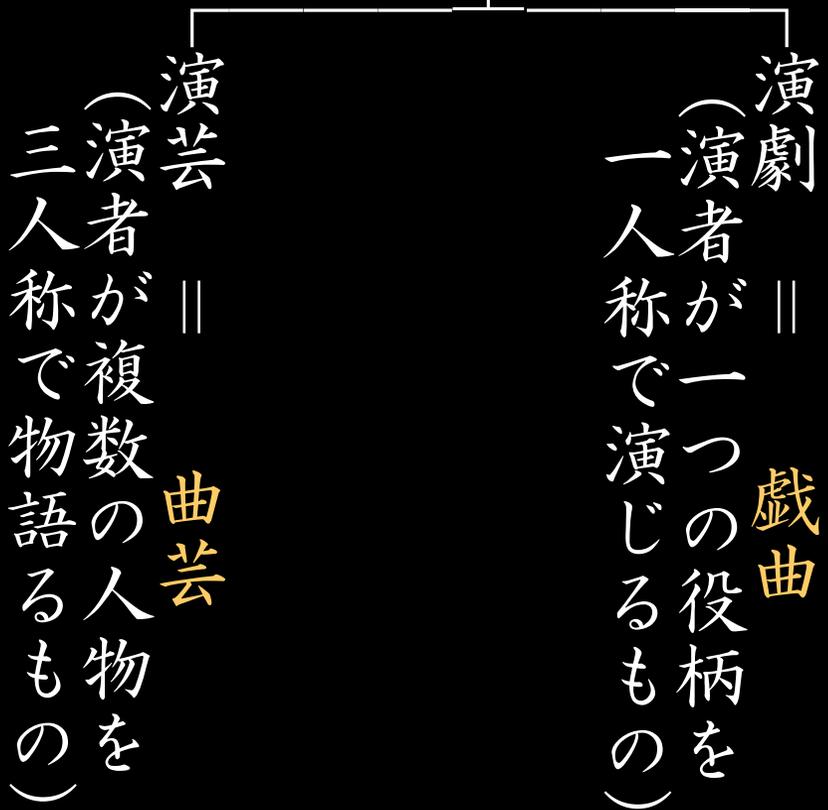
京劇の野外上演(江蘇省邳村)

日本と中国の伝統芸能

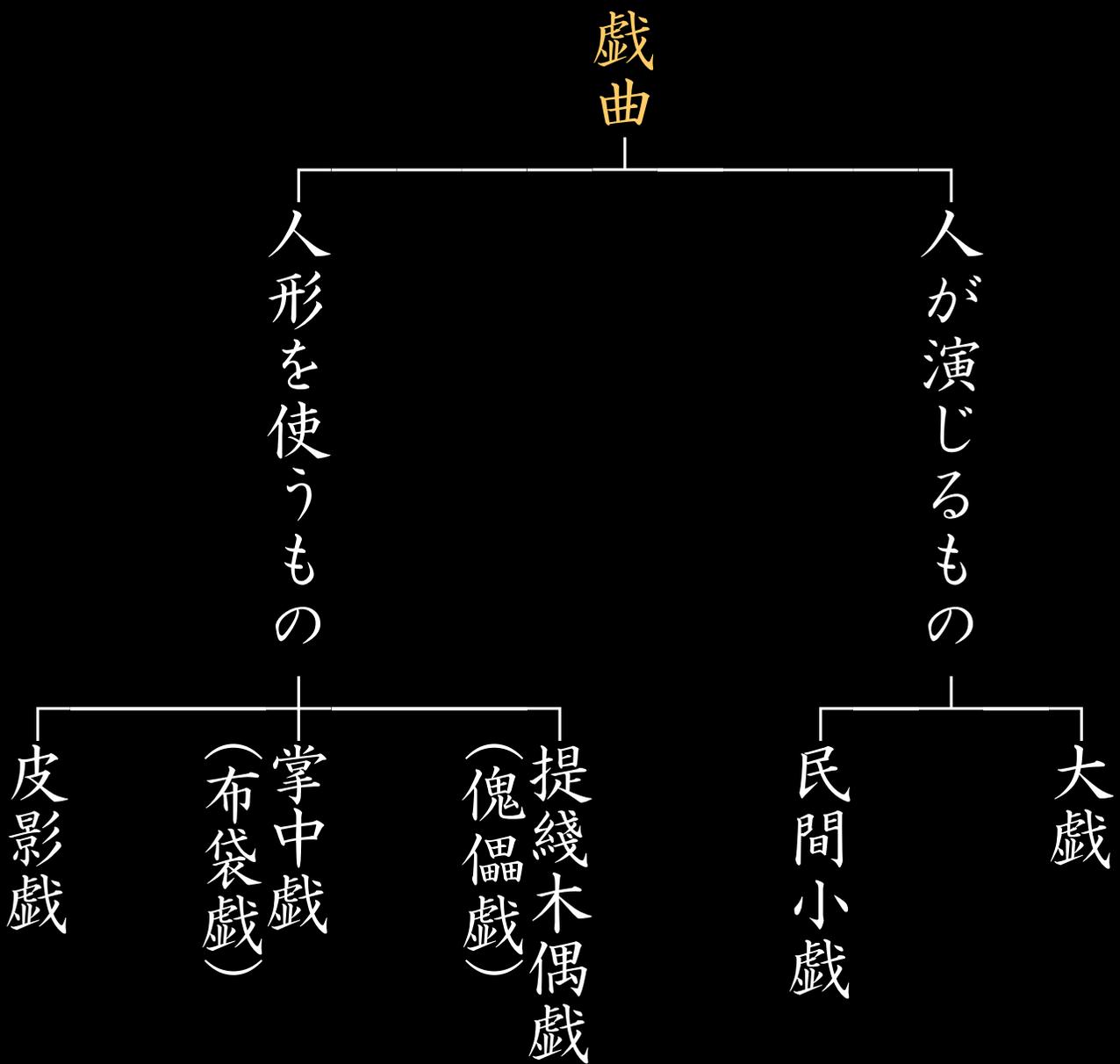
(日本)

(中国)

伝統芸能

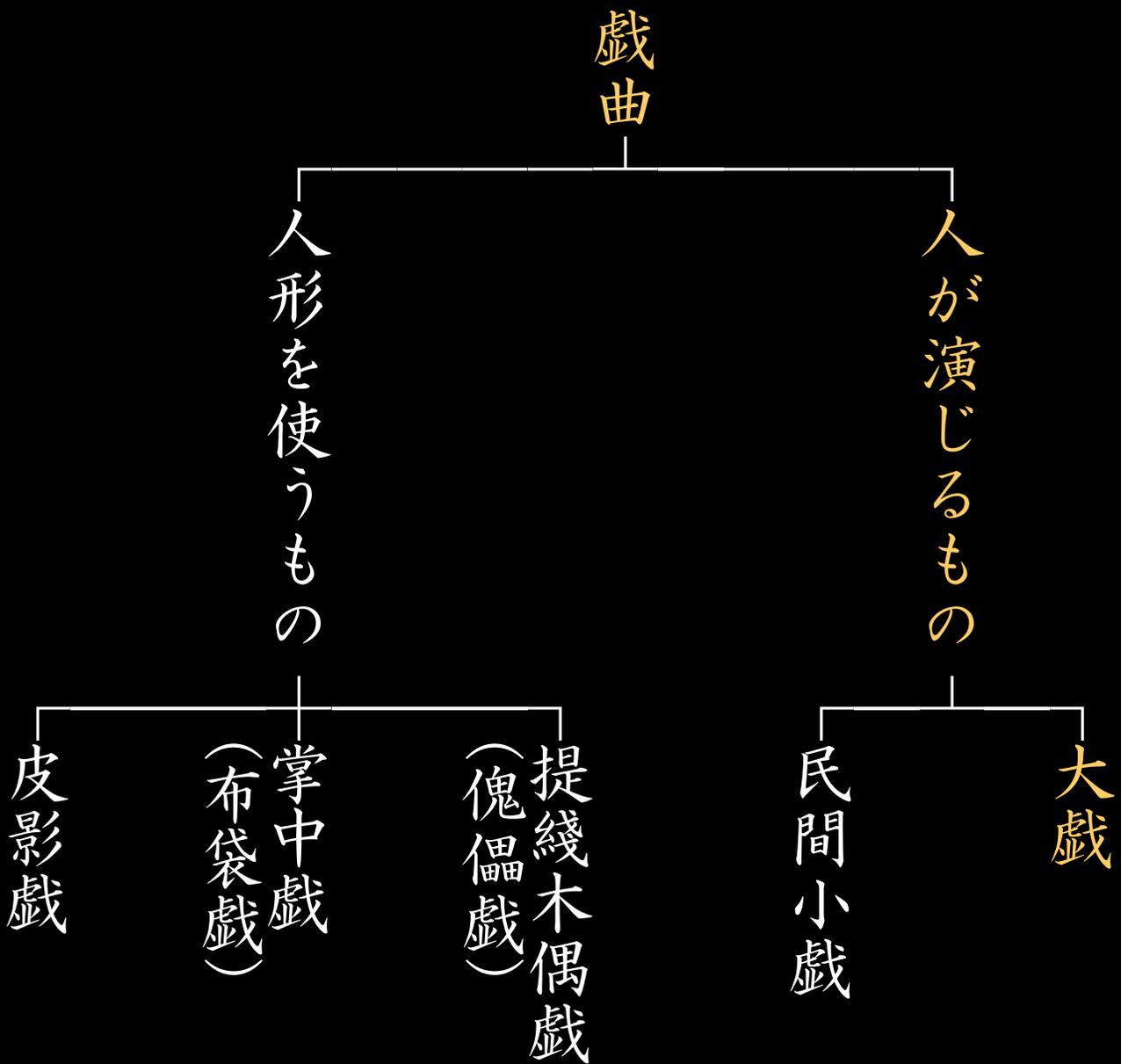


戯曲 — 中国の伝統演劇



* 一九九五年に出版された『中国戯曲劇種大辞典』には、計三三五種の戯曲が収録されている

戯曲 — 中国の伝統演劇



* 一九九五年に出版された『中国戯曲劇種大辞典』には、計三三五種の戯曲が収録されている

大戲

昆劇や京劇など中国の伝統的歌舞劇の総称。

舞台装置などはほとんど使わず、
「**有声必歌**、**無動不舞**」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）を基本に、役者の歌唱と身体表現によって演じられる。

京劇の野外上演(江蘇省邳村)





江蘇省邵村での京劇の野外上演(NHKスペシャル「故宮」第3集より)

能

日本の能も、役者の**謡**(歌唱)と**所作**(身体表現)だけによって演じられる歌舞劇である。

舞台装置などはほとんど使わず、**作り物**と呼ばれる象徴的な小道具が使われるだけである。

籬子(伴奏)には、**笛**・**小鼓**・**大**

鼓・**太鼓**が使われ、**地謡**と呼ばれるバックコーラスが謡で物語の進行を助ける。



能 「舟弁慶」

ここでは、能の代表曲の一つ「舟弁慶」を例に、能の特色を見てみよう。

物語の舞台は、鎌倉時代の初め。兄源頼朝に謀反を疑われ、朝敵にされた義経は、静御前と別れて、弁慶とともに海路、逃亡を図る。

ところが武庫山（六甲山）を過ぎたころ、にわかには風が吹き起こり、船は沖合いへと流されていく。弁慶が「あら不思議や海上を見れば、西国に滅びし平家の一門」と叫ぶや、沖合いから長刀をかかげた知盛の亡霊が現れ、義経一行に襲いかかる。



能「船弁慶」(同志社大学創造経済研究センター制作)





能「船弁慶」(同志社大学創造経済研究センター制作)

中国の戲台

戲台(中国の伝統的舞臺)には、三面開口型の張り出し舞臺が使われた。

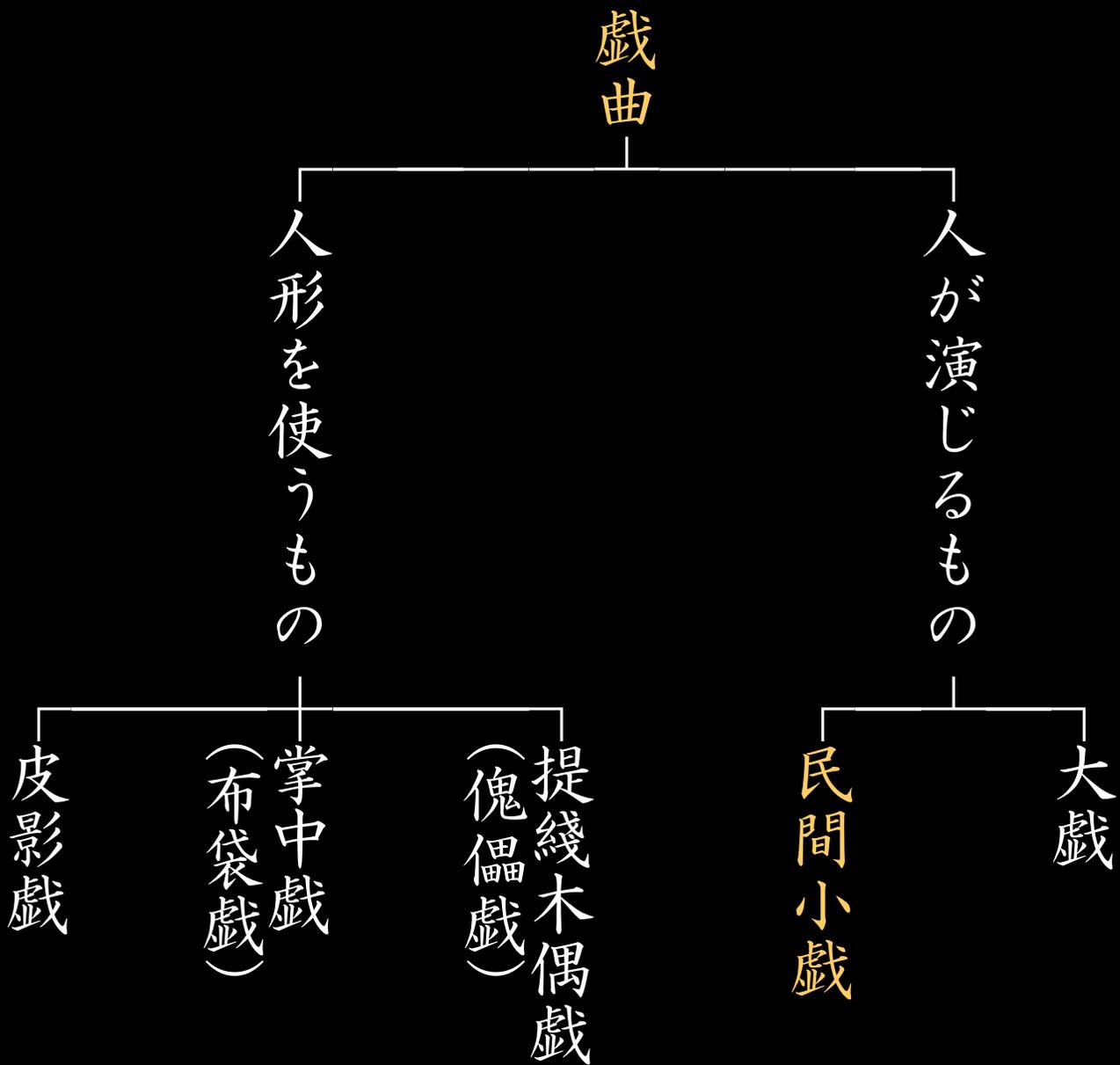
中国の古戲台





日本の能舞台(京都東本願寺能舞台)

戯曲 — 中国の伝統演劇



* 一九九五年に出版された『中国戯曲劇種大辞典』には、計三三五種の戯曲が収録されている

民間小戯

農民が祭りや農閑期に自演する民俗芸能。

写真は台湾の民間小戯・車鼓戯を伝える施朝養氏（右）が、「桃花過渡」という演目を演じているところ。



台湾の民間小戯 “車鼓戯”



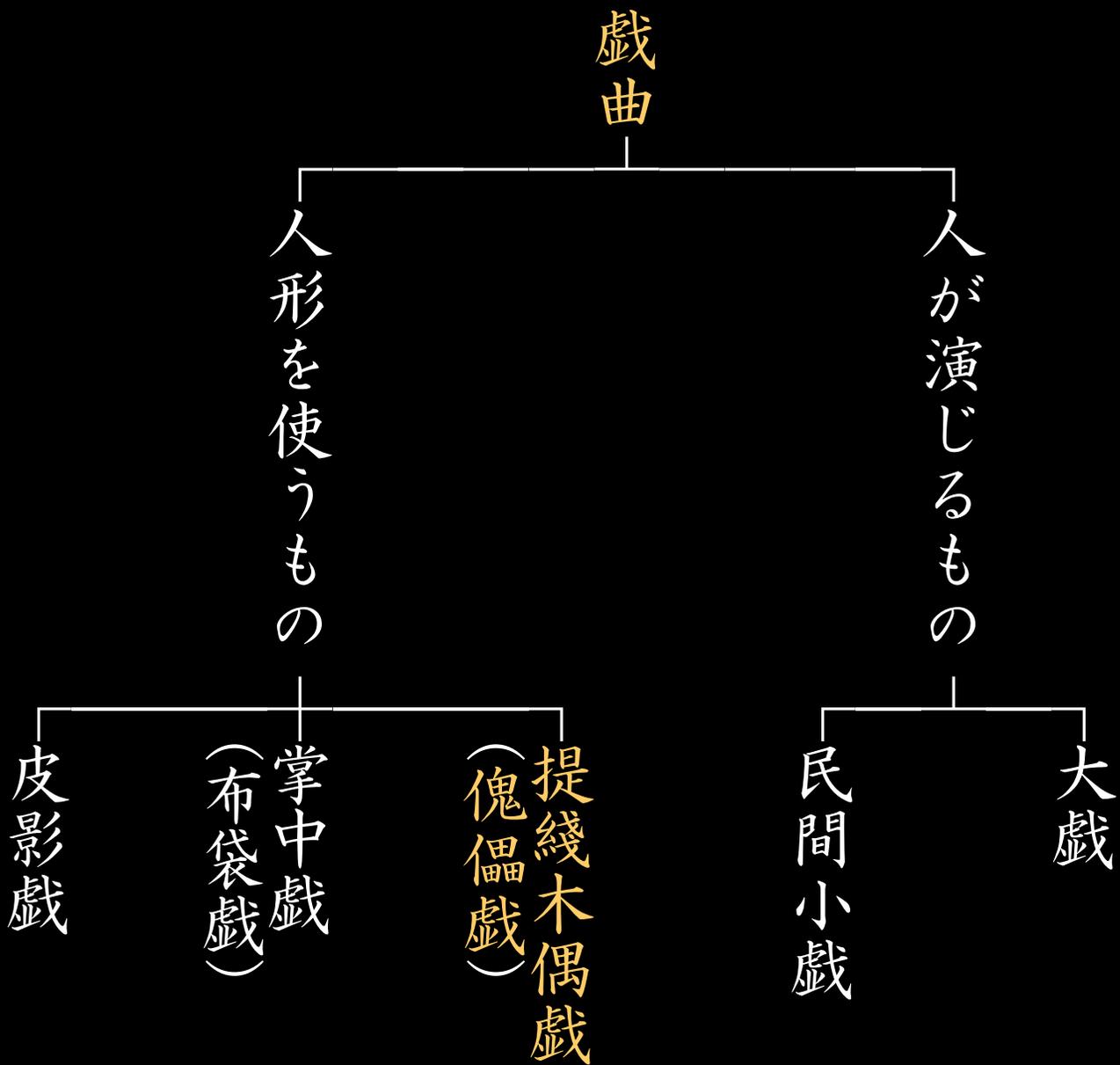
福院



來 奏 下 去 啦

台灣の民間小戲車鼓戲「桃花過渡」(撐渡阿伯：施朝養)

戯曲 — 中国の伝統演劇



* 一九九五年に出版された『中国戯曲劇種大辞典』には、計三三五種の戯曲が収録されている

提綫木偶戲（傀儡戲）

日本の江戸糸あやつり人形芝居に似た人形劇。竹製の手板から垂らした糸に人形の頭、手、脚、着物などに結び、上から操る。

写真は台湾の傀儡戲師・林金鍊氏。台湾では火事や交通事故などの災いがあると、いまも鍾馗の傀儡戲による厄払いの儀式が行われている。



台湾の“傀儡戲”（林金鍊）





傀儡戲「跳鐘馗」（台北景春堂·林金鍊 1933~）

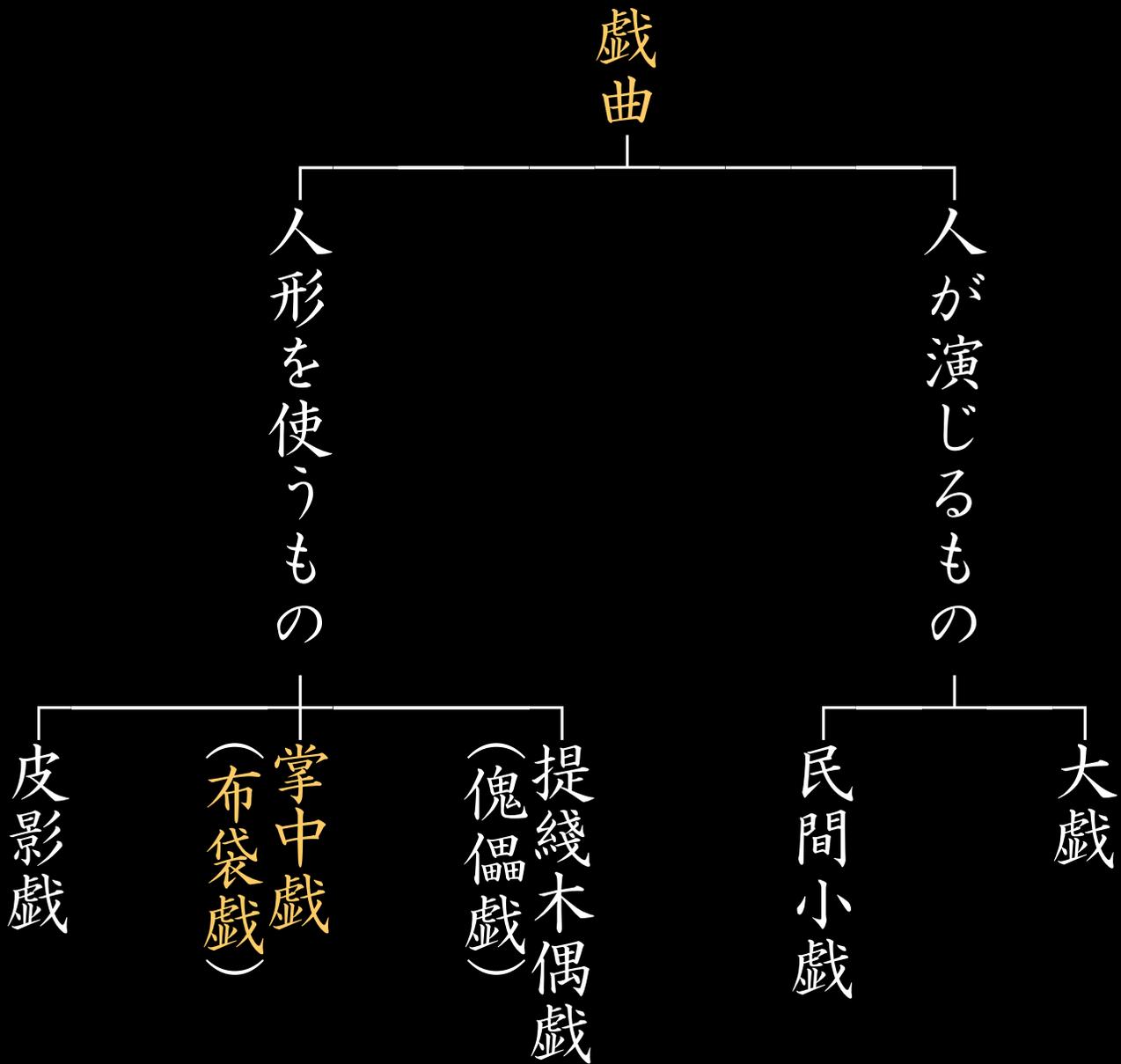


能「鍾馗」

中国で厄払いの神として信仰を集める鍾馗は、日本の能にも登場する。

能「鍾馗」では、非業の死を遂げた鍾馗が、奏聞のため都に上る旅人の前に現れ、護国の神となることを皇帝に奏上するよう頼む。そして悪鬼を退治してその神通力を示す。

戯曲 — 中国の伝統演劇



* 一九九五年に出版された『中国戯曲劇種大辞典』には、計三三五種の戯曲が収録されている

掌中戲（布袋戲）

日本の猿倉人形（秋田県指定無形民俗文化財）によく似た片手遣いの人形芝居。

人形の内部に手を差し入れ、片手の指や手首の動作で人形を操る。台詞（せりふ）は人形遣いがいう。

台湾の“布袋戲”





掌中戲（台湾映画「戲夢人生」より）



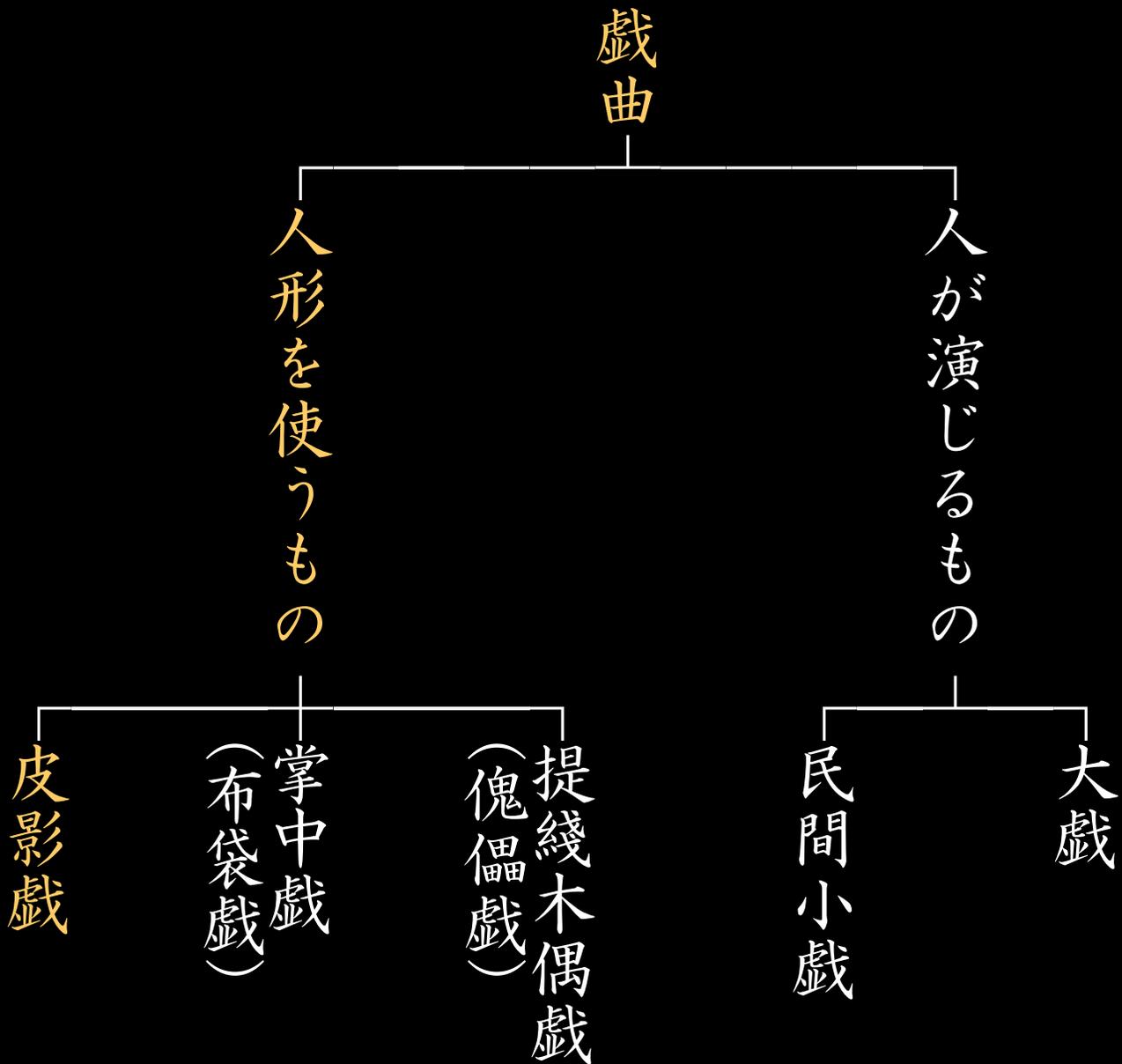
掌中戲 (陳錫煌 1931~重要傳統藝術布袋戲類保存者)

猿倉人形芝居 (秋田県指定無形民俗文化財)



イギリスの伝統的人形劇 Punch and Judy。夏の間、イギリス各地で上演されているほか、毎年5月9日にはロンドンのCovent Gardenに近いSt. Paul's Churchで競演会が開かれている。

戯曲——中国の伝統演劇



*一九九五年に出版された『中国戯曲劇種大辞典』には、計三三五種の戯曲が収録されている

皮影戲

白布のスクリーンに後方から光を当てながら、獣皮など作った透かし彫りの平面人形を棒で操り、その影をスクリーン上に投影させる人形劇。写真は中国陝西省の地窖皮影戲を上演する南文産氏。

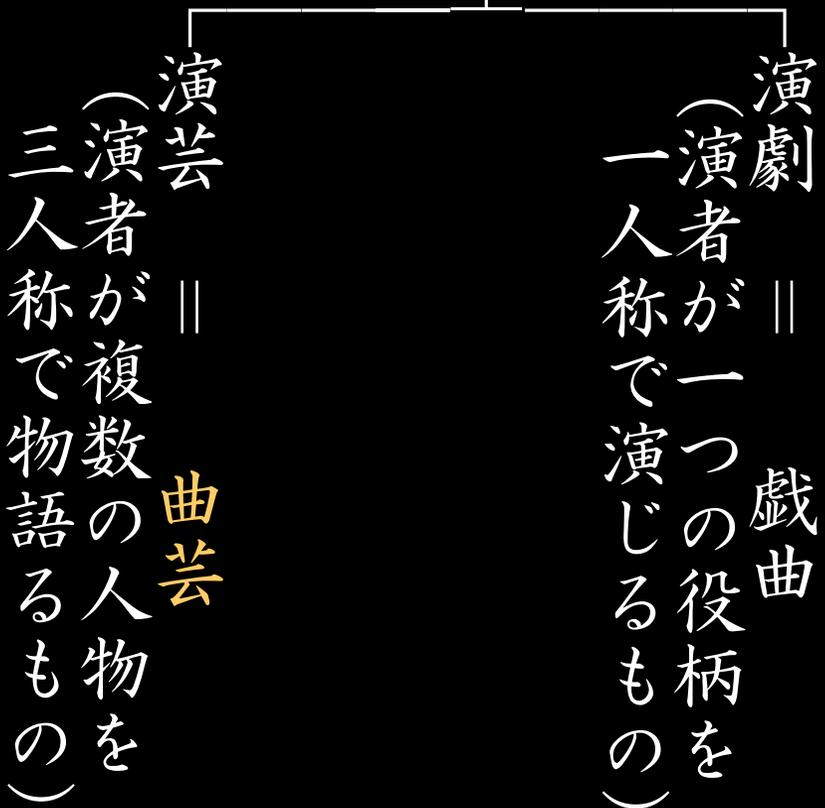
中国陝西省の地窖皮影戲(南文産)

日本と中国の伝統芸能

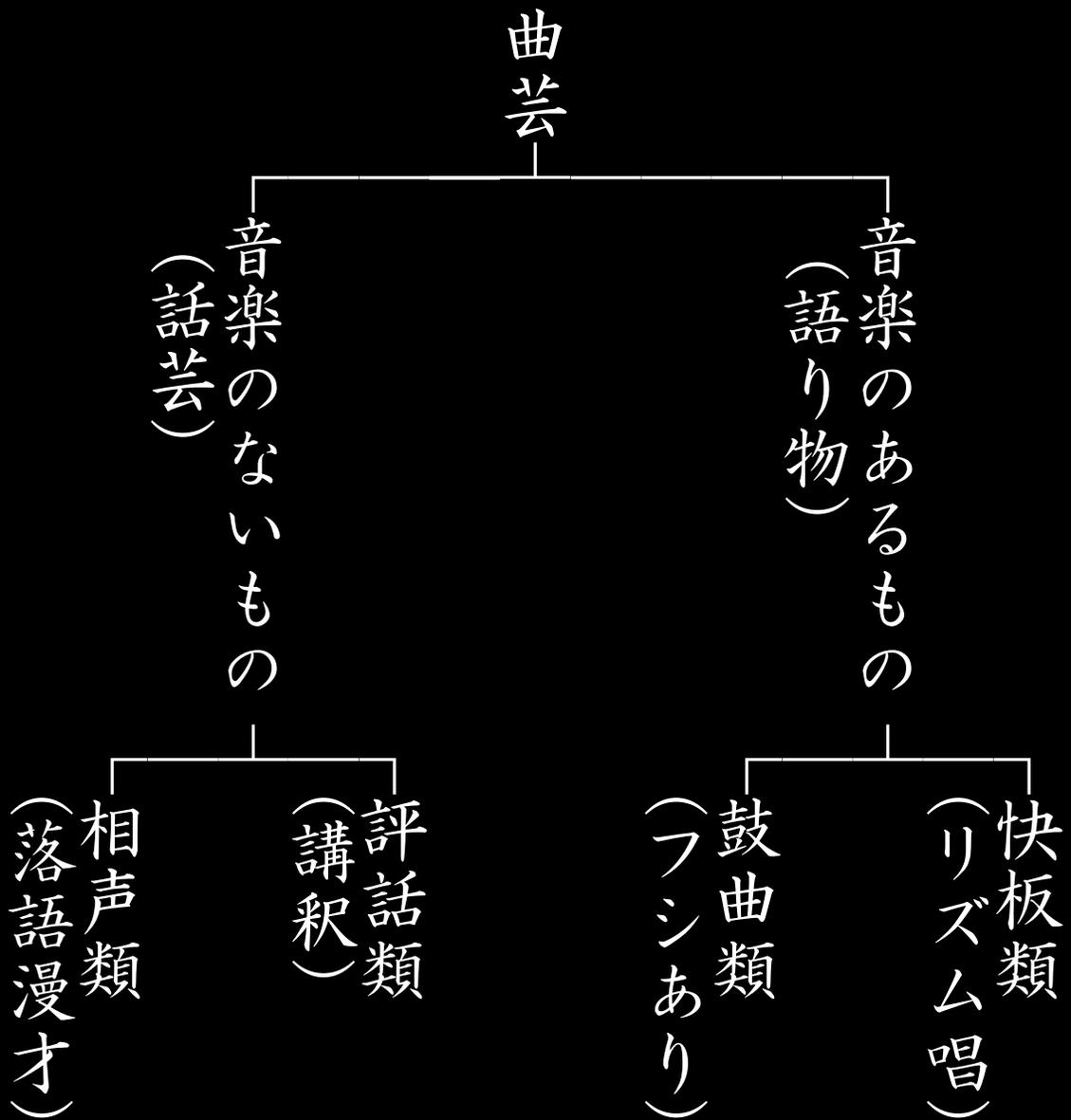
(日本)

(中国)

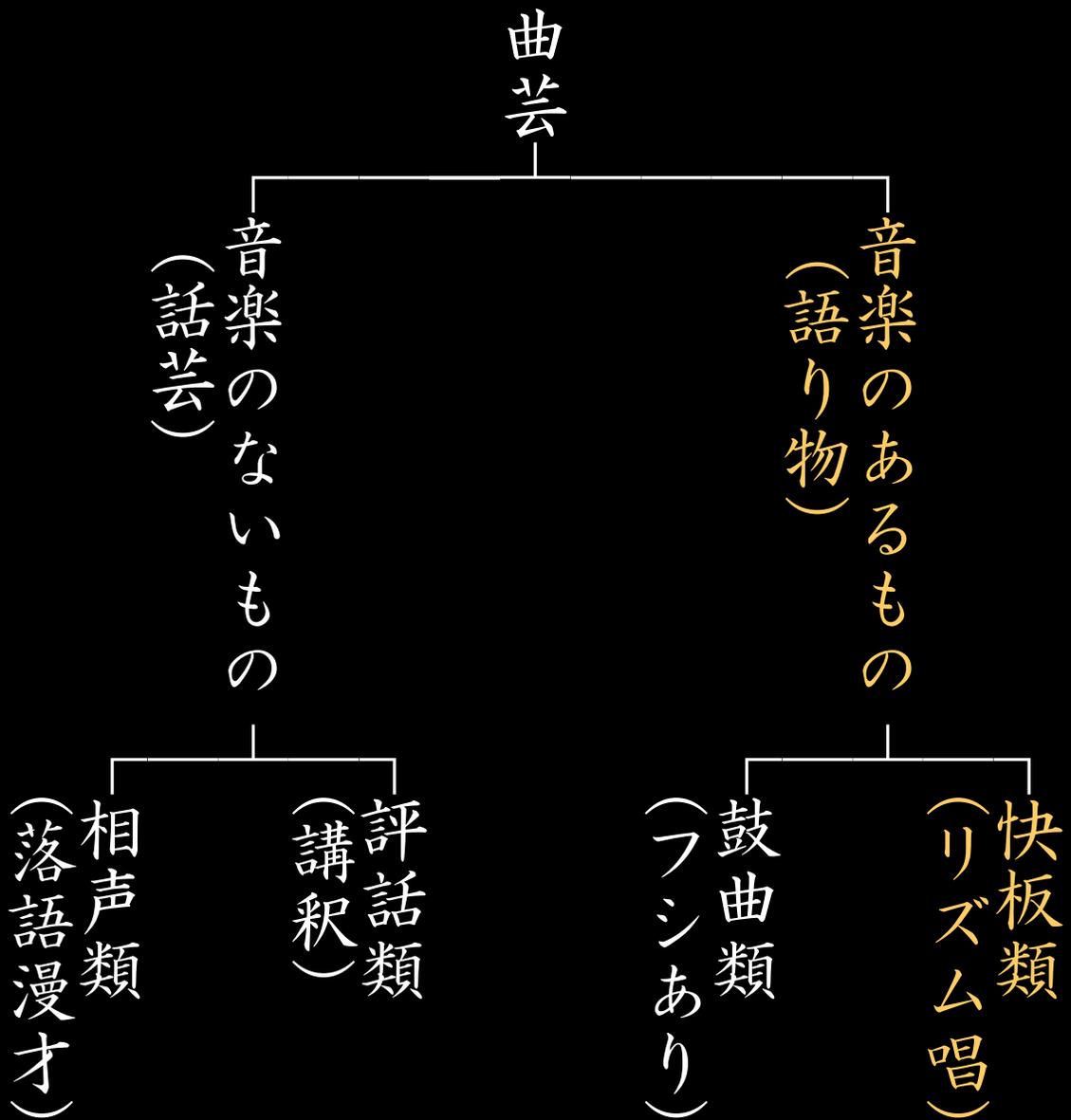
伝統芸能



曲芸——中国の語り物・話芸



曲芸——中国の語り物・話芸



快板類

竹で作ったカスタネットや半円形の二枚の金属片を打ち鳴らしながら、リズム唱で語るラップに似た語り物。門付け芸から生まれた数来宝や、快板書、水滸伝の武松の物語を得意とする山東快書などがある。

写真は快板書の芸人・張志寛（一九四五〜、国家一級演員）。



“快板書”（張志寛）

快板書 「酒迷」 (演者 張志寬)

〔梗概〕

ある酒好きの男。妻に酒を止められ、妻が「酒(jiǔ)」という発音を口にしないかぎり酒は飲まないと約束する。

男は飲み仲間と図って、なんとか妻に「九(jiǔ)」や「舅(jiù)」など「酒(jiǔ)」と同じ発音をさせようとするのだが――



“快板書” (張志寬)



快板書「酒迷」 (演者 張志寬)



快板書は、竹で作った「快板」で
リズムを取りながら物語を語る。
では、このような楽器は日本にも
あるのだろうか？



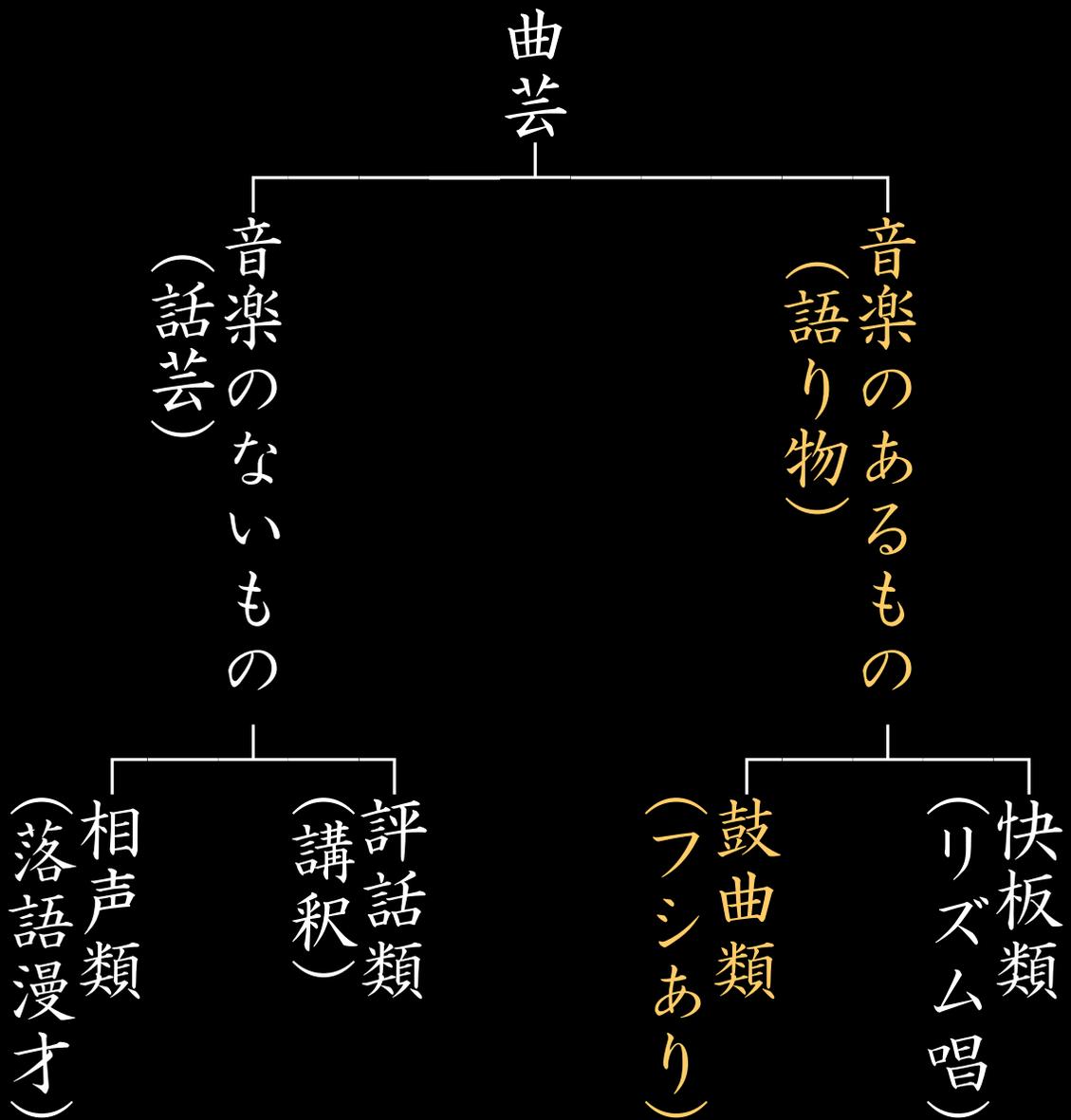


沖縄の三板（サンバ）



喜納啓子ファミリー「ヒヤミカチ節」

曲芸——中国の語り物・話芸





西河大鼓（楊雅琴）



彈詞（黃嘉明、秦建國）

鼓曲類

フシ（旋律）にのせて語る語り物。北方各地には大鼓でリズムをとりながら語る「大鼓」があり、蘇州など江南には三弦、琵琶を伴奏楽器として弾き語る「弾詞」がある。

弾詞 「月下に韓信を追う」

黄嘉明（三絃）、秦建国（琵琶）

ときは紀元前3世紀。秦が農民反乱によって滅びた後、二人の英雄が天下を争っていた。楚の項羽と漢の劉邦である。

劉邦の配下に韓信という武将がいた。その優れた才能を見抜いた蕭何（のちの漢の宰相）は、彼を重用するよう劉邦に進言する。しかし、劉邦はなかなか聞き入れようとしない。失望した韓信は、夜陰に乗じて逃亡を図る。月明かりの中、韓信の後を追った蕭何は、膝を屈して漢に戻るよう説得する。

蕭何という知己を得た韓信は、漢の建国のため、ともに戦うと誓う。





弾詞 「月下に韓信を追う」

黄嘉明（三絃）、秦建国（琵琶）

漢王朝の建国に大きな功績を挙げた韓信であったが、やがて悲劇的な運命が彼を待っていた。

劉邦が、垓下の戦いで項羽を破り、天下を統一すると、韓信はその能力ゆえに疎んぜられ、あまりの冷遇に耐え切れなくなった彼は、謀反を企てる。

韓信の計略は一時成功するかに見えしたが、盟友と信じていた蕭何の裏切りに会い、ついに非業の最期を遂げたのである。



唐人宮樂圖(台北故宮博物院藏)

琵琶

〔解説〕

琵琶は、前漢時代に西域から中国に伝えられたリユート属の撥弦楽器。日本へは奈良時代以前に伝えられ、雅楽や盲僧の伴奏楽器として使われていた。

現代中国では評弾のように指先で爪弾くのが一般的だが、古くは左図のように撥を使って演奏していた。



唐人宮樂図(台北故宮博物院蔵)

盲僧琵琶

〔解説〕

盲僧琵琶は、九州の天台宗の盲僧が行う琵琶楽。もともとは寺院法会の伴奏として演奏されていたが、のちに檀家を回り琵琶の弾き語りで五穀豊穡や無病息災を祈るようになった。

写真は「最後の琵琶盲僧」と呼ばれた故永田法順師。中国から琵琶が伝わったときと同じく、撥を使う演奏法を伝えている。



永田法順(1935-2010)





釈文「五郎王子の物語」 (日向盲僧琵琶演奏・永田法順)

三弦

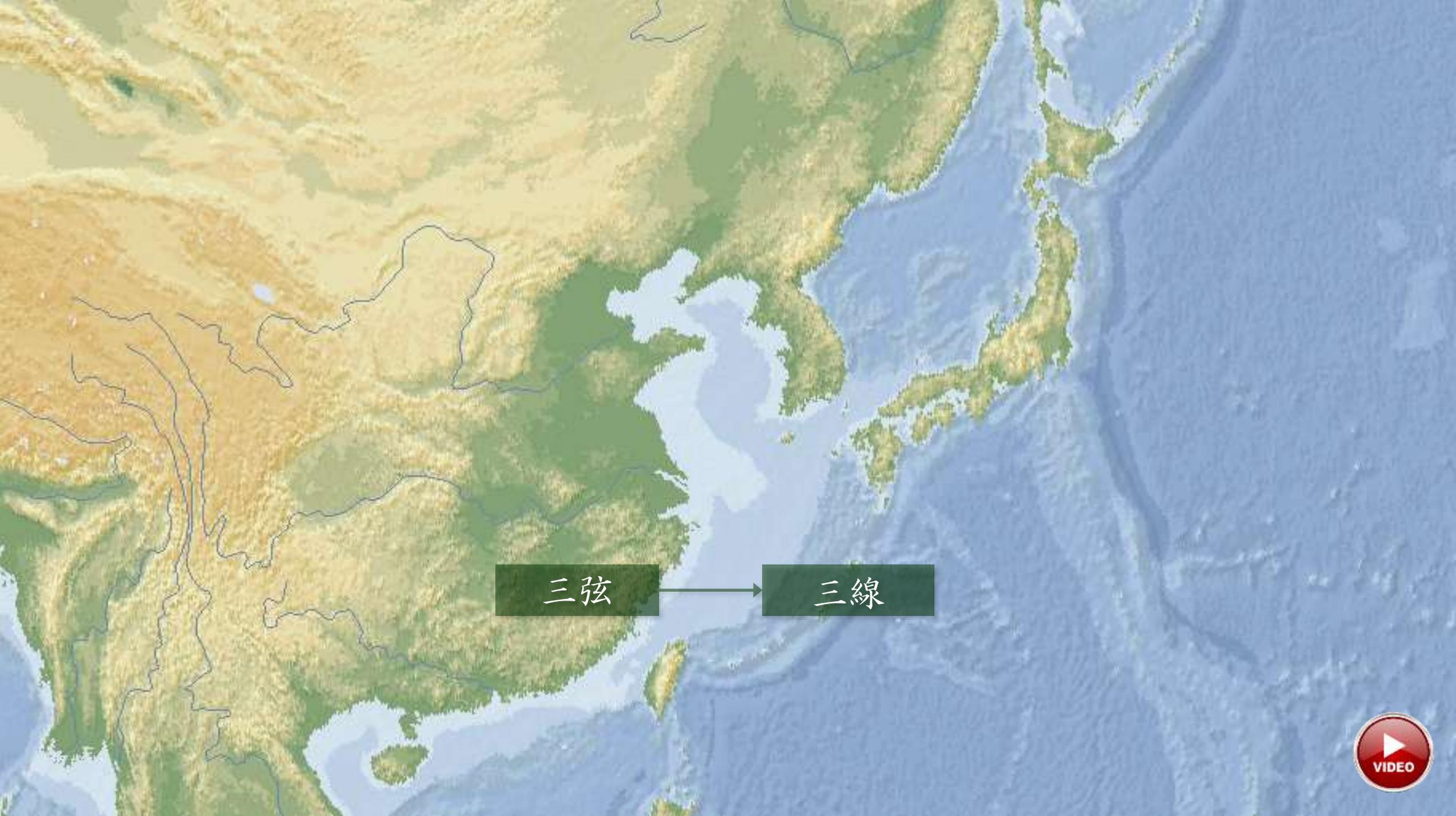
〔解説〕

三弦は、元の時代に西域から中国に伝えられたリユート属の撥弦楽器。

その後、中国から琉球に伝わり、戦国時代の末に琉球から日本に伝えられた。



三弦



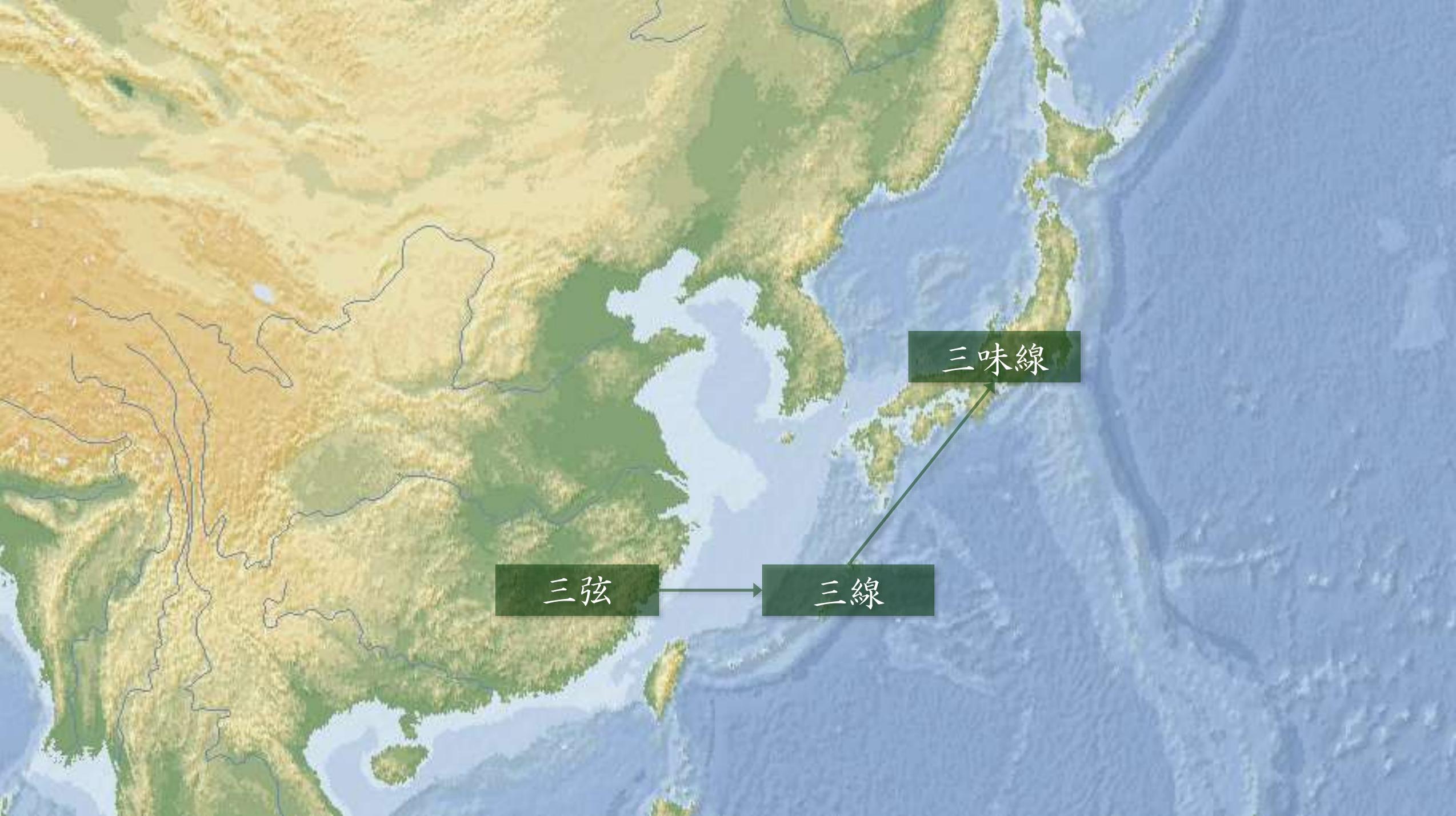
三弦

三線





「涙そうそう」
(歌唱・三線演奏 夏川りみ)



三弦

三線

三味線

義太夫三味線

中国の三弦や沖縄の三線が胴に蛇の皮を張るのに対し、日本本土の三味線では犬や猫の皮が使われる。

また盲僧琵琶の演奏法に倣って撥を使うところにも特徴がある。

写真は義太夫三味線の鶴澤燕三師。



六代目竹本織大夫と六代目鶴澤燕三(えんざ)



人形浄瑠璃

三味線という新たな伴奏楽器の伝来により、浄瑠璃という語り物が誕生する。浄瑠璃はやがて人形の上演を加え、人形浄瑠璃という日本を代表する人形劇を生み出した。

写真は『菅原伝授手習鑑』の中の「寺子屋」の段。菅原道真の敵・藤原時平に仕える松王丸は、道真の子・菅秀才の命を守るため、わが子・小太郎を道真の家臣武部源蔵の寺子屋に送り、菅秀才の身代わりにする。

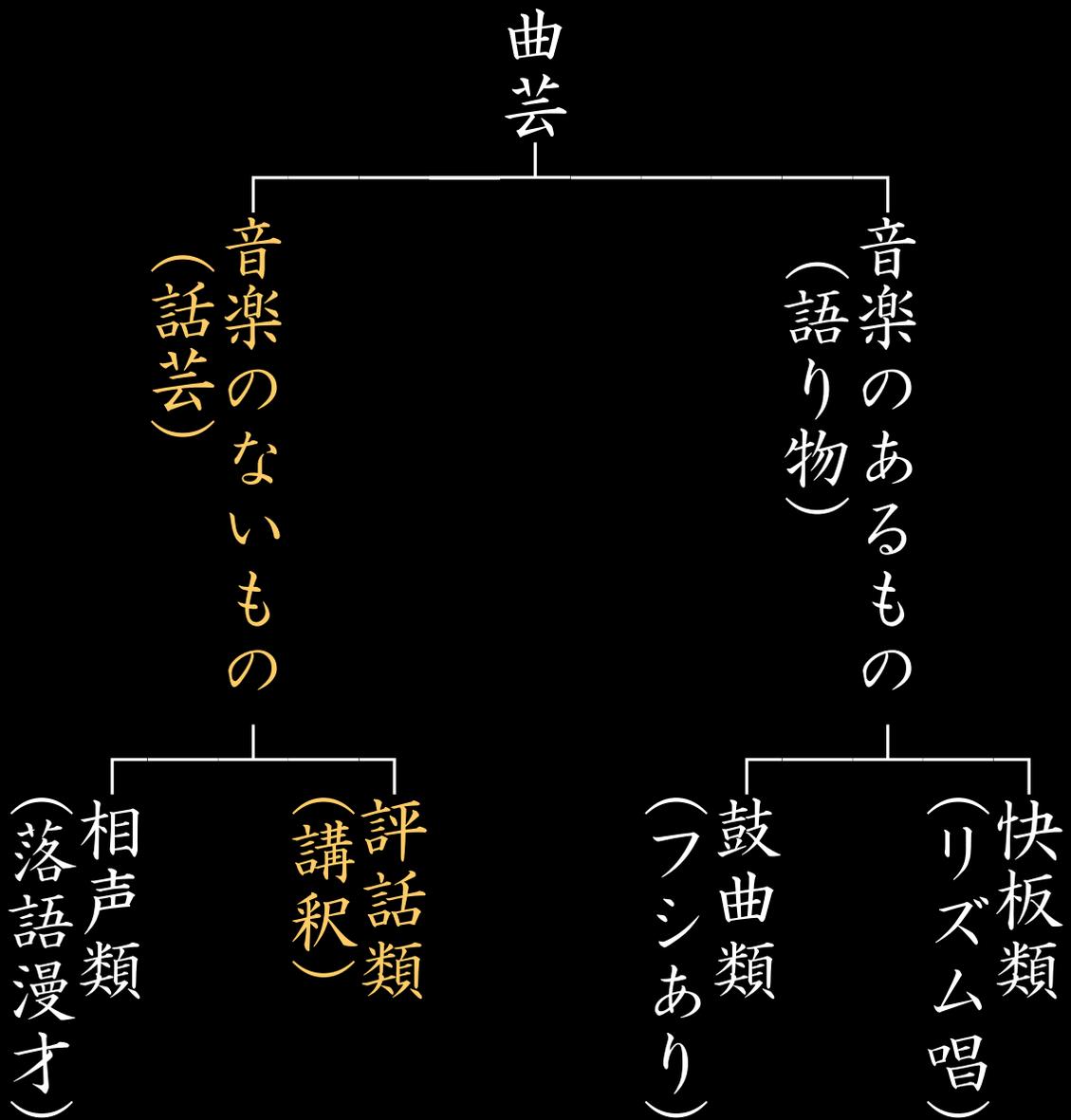


人形浄瑠璃『寺子屋』



人形浄瑠璃「寺子屋」の段（国立文楽劇場 1989年）
（太夫：故人間国宝・竹本源大夫、三味線：鶴澤燕三(えんざ)）

曲芸——中国の語り物・話芸



評話類

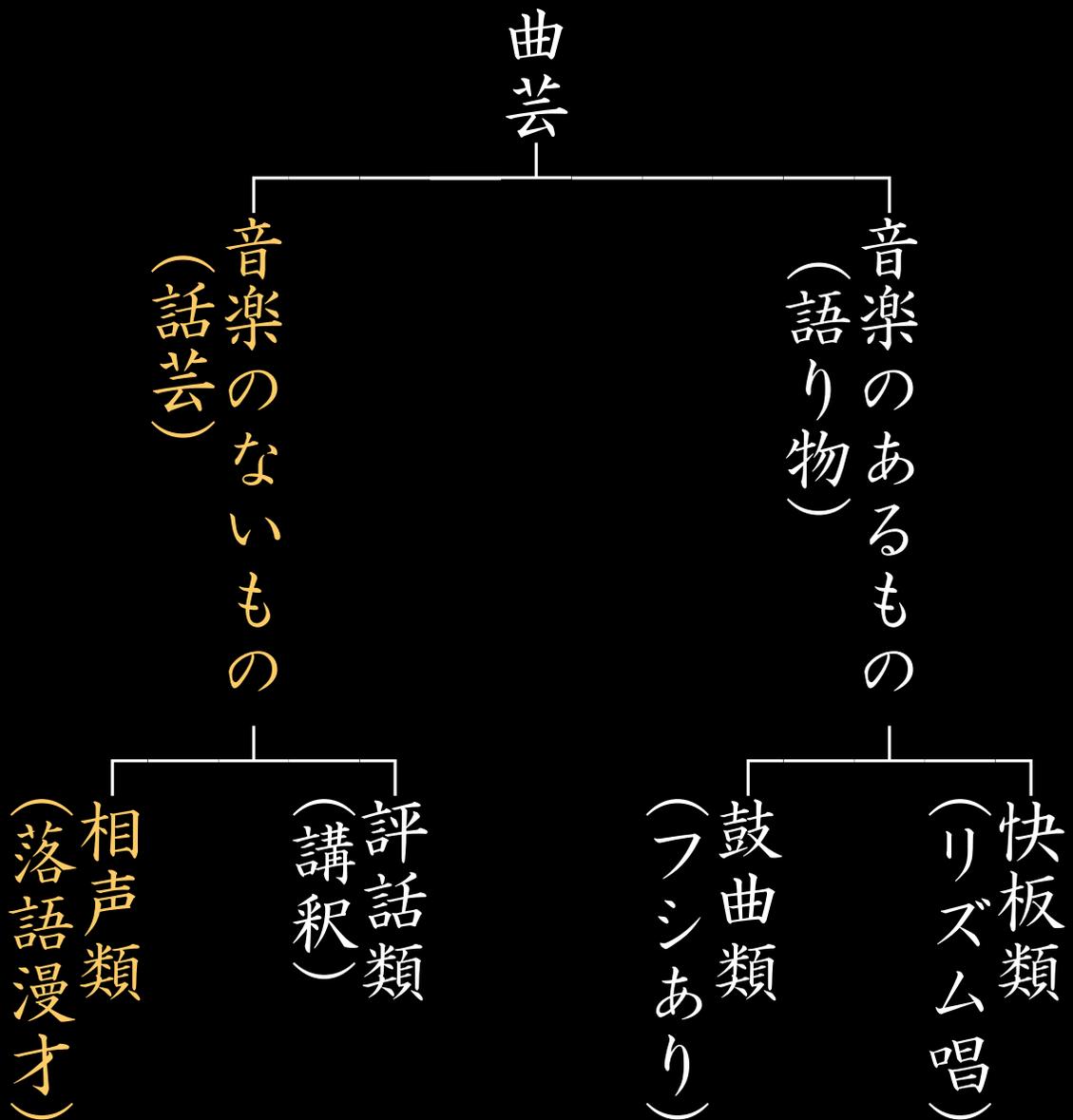
日本の講釈に当たる話芸。扇子と醒木（拍子木）だけを道具に使い、物語を語る。

もともとは書茶館と呼ばれる講釈場で上演されていたが、メディアの発達とともにラジオやテレビでも放送されるようになった。『三国志演義』や『水滸伝』、『楊家将』などの長編では、一回二、三十分、計百回以上にわたって口演される。



“評書” (田連元)

曲芸——中国の語り物・話芸



相声類

日本の落語、漫才などに当たる笑いの話芸。北方を中心とする「相声」、上海の「独脚戲」などがある。落語に当たる「単口相声」、漫才に当たる「対口相声」ともに多くの古典作品がある。

近年、郭徳綱が率いる徳雲社が興行的に成功を収め、岳雲鵬と孫越などの人気スターを生み出すなど、相声は一大ブームとなっている。

中国の漫才“対口相声”
(左：岳雲鵬、右：孫越)



CCTV 1

综合

直播

高清

环绕声

2015 中央电视台
春节联欢晚会 乙未年

对口相声「我忍不了 (がまんできない)」 (岳雲鵬、孫越)

まとめ

中国では、いまも「戯曲」と呼ばれる三百種類以上の伝統演劇と、「曲芸」と呼ばれる約四百種類の伝統演芸が、舞台芸術あるいは民俗芸能として盛んな活動を続けている。

わが国の伝統芸能の特色は、こうしたアジアの伝統芸能との比較なしに語ることはできない。

次回以降の各論篇では、中国の四大民間故事の中から、人間の若者に恋をした蛇の精の物語「白蛇伝」と、アジアのロミオとジュリエットと呼ばれる「梁山伯と祝英台」を取り上げ、中国の伝統芸能についてさらに掘り下げていきたい。

参考文献

- 村松一弥『中国の音楽』（勁草出版、一九六〇年）
- 孫玄齡『中国の音楽世界』（岩波新書、一九九〇年）
- 吉川良和『中国音楽と芸能—非文字文化の探究』（創文社、二〇〇四年）